

小木の子 われら

校 区 内
全 戸 回 覧

令和2年7月21日発行

言葉のもつ力

校 長 齋 藤 光 夫

冒頭に、令和2年7月豪雨で被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

学校の廊下には、各学年が話し合っ考えた「いじめゼロ強調週間標語」が今も掲示されています。子どもたちは、ふわふわ言葉のよさを理解し、ちくちく言葉をなくそうという強い気持ちを確認し合っています。

この「ふわふわ」と「ちくちく」の言葉と同様に、私たちが生活の中で使用する言葉を「明元素（めいげんそ）」と「暗病反（あんびょうたん）」という2種に分ける考え方があるようです。

明元素とは、「明るい」「元気」「素直」につながる言葉群です。一方、暗病反とは、「暗く悲観的」「病的」「反抗的」につながる言葉群です。

- 充実している ○頑張れた ○簡単だ ○楽だ ○おもしろい ○できる ○大丈夫だ
○おいしい ○やってみよう ○幸せだ ○楽しい ○元気だ ○すごいな ○まだ若い
●忙しい ●疲れた ●難しい ●大変だ ●つまらない ●できない ●だめだ
●まずい ●やりたくない ●不幸だ ●苦しい ●つらい ●最悪だ ●もう年だ

いかがでしょうか、仕事を終えて「疲れた」とつぶやくか「頑張れた」と自分を褒めるか。宿題を「大変だ」と思って始めるか「これくらい楽だ」と自己暗示をかけて始めるか。

私自身、日常的に使ってしまう言葉が「暗病反」に多いように感じます。これを自分の性格だからと決めつけず、明元素言葉を使用したり、思考してみたりするだけで、その場の空気感が変わり、意欲向上や現状打破につながるのであれば、だれにでもできる言葉遣い（「遣」は気遣う、思い遣るなどと同様）として活用できるのではないのでしょうか。

時として凶器となる言葉。決して安易に使（つか）ってはいけないと強く意識して遣（つか）い、言葉のもつエネルギーを「生きる力」へとつなげていきたいものです。

